

## 1. 格付のご説明

### (1) 格付とは

企業や国家などが発行する個別の債券について、元利金が約定通り支払われる確実性を記号で表したものを格付といますが、一般的には企業や国家の安全性や健全性を表すものとして受けとめられています。

「長期発行体格付」は、具体的な債券を特定せず、現在背負っている無担保の債務または将来背負うであろう不特定の無担保債務を包括的に捉えて、債務履行能力を格付したものです。

格付機関は格付対象会社の業績・財務状況や経営方針（対象が国家の場合は、財政状況・国際収支・経済成長率や政治的安定性）などを総合的に審査して格付を行ないます。

格付機関は民間の会社ですが、永年の格付実績や金融自由化の進展に伴い、その影響力を強めています。世界的には、S & P（スタンダード&プアーズ）やMoody's（ムーディーズ）などが有名であり、国内には日本格付研究所（JCR）や日本格付投資情報センター（R&I）などがあります。

### (2) 正式格付と勝手格付

通常の格付は格付取得を希望する会社が格付機関に格付を依頼し、格付機関は決算などの公開情報や内部情報などの未公開情報と、経営者への経営方針などのヒアリングを総合的に勘案して格付を行ないます。これが正式格付であり、この場合は有料となります。

これに対して、格付対象会社から格付機関への依頼は行われず、格付機関が公開情報のみに基づいて任意に行なう格付を勝手格付と言い、こちらは無料です。

## 2. 格付の定義

格付機関によって若干の差異はありますが、格付はアルファベットを用いて表します。最も信用力の高い格付がAAA（トリプルA）、次がAA（ダブルA）、以下順番に信用力が低下していき、最も信用力の低い格付がD（債務不履行状態）となります。

なお、JCRの正式格付においては、格付記号の末尾に+（プラス）または-（マイナス）が付加されることがあります。これは、同一ランクの格付けをさらに3段階にランク付けするものです。例えば、A+、A、A-のような形でAを3段階評価します。

## 格付記号の説明

格付記号	J C R の格付の定義
A A A	債務履行の確実性が最も高い。
A A	債務履行の確実性は非常に高い。
A	債務履行の確実性は高い。
B B B	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来債務履行の確実性が低下する可能性がある。
B B	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。
C C C	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
C C	債務不履行に陥る危険性が高い。
C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
L D	一部の債務について約定どおりの債務履行を行っていないが、その他の債務については約定どおりの債務履行を行っているとして J C R が判断している。
D	実質的にすべての金融債務が債務不履行に陥っていると J C R が判断している。

### 3. 格付の意義

#### (1) 格付対象会社（債券発行体）にとっての意義

債券発行などの直接金融市場において、発行コスト（資金調達コスト）を決定する大きな要因のひとつが格付です。より上位の格付の会社ほど、より低コストで債券を発行でき、資金調達が容易にできます。

銀行にとっては、格付は自行の信用力を客観的に表したものであると捉えることができます。また銀行に限らず、IR（企業が投資家向けに財務内容や業績などの企業情報を公開すること）の一環として多くの格付取得会社は、優良格付の取得や格付向上の為、財務内容の改善・事業の再構築などに努力し、業績の向上を目指しています。

#### (2) 投資家・預金者にとっての意義

投資家は債券購入時に、発行体の格付によってその信用力と価格の妥当性を判断し、購入の是非を決定します。また、現在保有している債券が格下げになった場合は、保有しつづけるリスクを判断し、売却又は持続を決定します。機関投資家においては、格付を投資判断の一つの基準として利用しています。

預金者にとって、預金を預けている金融機関に対する信用判断は、従来であれば規模の大きさ・歴史・地縁などでしたが、現在では、株価・格付・不良債権比率・自己資本比率など数字や記号により客観的に捉えられるものへと比重が移ってきています。

格付けに関する関心は市場関係者ばかりでなく、一般のお客さまにも高くなってきており、リスク判断の有用な情報としての格付けの意義と重要性は一段と増してきています。

以上